平新報

發行日 毎月三回 五ノ日發行
編輯兼發行印刷人 山野邊庄吉
發行所 福島縣平町南町七五 平新報社
廣告料 五號十二字詰一行 一回五十錢 特別指定倍增
一部 定價金十錢
送料 五厘

總選擧に際して

江尻中

衆議員の解散の結果、愈々總選擧が行はれることになつて、吾々一票を投じなければならぬ時期が旬餘日の後に迫つた。吾々が一個の國民として國家の政治に參與するのは唯總選擧が有るばかりであるから、總選擧と言へば如何なる場合でも吾々の大切なる任務として尊重しなければならぬ、凡そ立憲政治即ち政黨政治なるものは其政黨の生命は政策である故に我等は今回の總選擧を以て各政黨の掲ぐる政策に對して可否の裁斷を下す機會に遭遇して居るのである。無產黨は暫く措き、予は今茲に政民兩黨の主張を公平無私の見地より比判せんと欲するものである。

政友會では今回の解散を以て非立憲的であるとして非難してをるが、勿論憲法の純理論から謂へは濱口內閣の組閣當時に解散すべきものである。然し選擧の準備が整はないからであつた。是れ甚だ橫着の尤なるもので決して最善の策ではなかつたにせよ政友會に引ずられて野垂死するよりも上策と言はねばならぬ、況んや政友會內閣當時にも無意義の解散は幾度もあつた。

民政黨では今度の疑獄を以て政友會にのみ前科者あるが如く吹聽してをるが、彼等が敵營を燒打して快哉を叫ぶ間もなく火は早や我が本營に延燒し來つて、此の火が何處迄燒え擴がる乎決して安心が出來ぬ狀況である。若し疑獄の責任を問ふならば政民兩黨殆んど烏の雌雄を、知らない現況である。

更に二大政黨の政策を比較對照するに政友會は金解禁は時機の宜しきを得ないと言ふも、其解禁には反對ではない消費節約乃至緊縮は不景氣を招來するものであると非難しても、國民の望む樣な景氣を一時的でも出現するために此の上不自然ながらも積極政策借金政策を行ひ得るとの確信も持たぬであらう。緊縮を不景氣の大原因と呪ひながら根本的行政整理を行つて財政餘裕を圖れと言ふ行政整理は官吏の陶汰を離れては出來ぬ官吏の陶汰はこれ又不景氣の種子を蒔くものである地租の地方委讓と敎育費の國庫補助の增額との間にどれだけの相違があるか、其他產業の振興國際貸借の改善、失業者對策、社會政策等擧げ來れば殆んと其政策に何等の異りはなく、唯用語を異にするのみで一として相容れない根本的主義の相違を發見することを得ないのである。

然らば今回の選擧に際りて人物に重きを置くべきか、黨派に重きを置くべきかが問題である。勿論立憲政治は多數政治であるから政黨を輕視することは出來ぬが以上述論する所見より我等は政策に依て可否を判斷すると言ふ眞理も我國現在の政黨間にあつては、大なる意義を有せざれば選擧すべき人物の良否を撿することが緊要である、地方の發展を餌にして運動金を强要する者議場に於て不遜下劣の暴言を吐く者、彌次暴行を常習とするものの如きそれだけでも既に代議士たるの資格を有せざる者である。我等は今回の總選擧に際して殊に議會の品位向上の點に於て個人にも道德的試驗の必要なることを主張し、其選擧民の心得として其選擇法を推獎するものである。

年賀ハガキより（三）

皇紀貳千五百九〇年 元旦

福島縣平町五丁目 諸橋元三郎

賀正

淸く、正しく、强く、
そして發展を祈上候

昭和五年元旦

福島縣石城郡四倉町仲町 粟野良平

謹んで昭和第五の新春を祝す

神域に開扉響くや年の立つ
神居ます杜に子來の初詣
師の君の古稀を祝ぐ年あけて道は天下にひろごりぬべし
ひのもとのくにつみのりをかがやかす
つとめしげかるとしわれにきぬ

高知尾誠吉

東京下谷區櫻木町一 明治會本部

內科、小兒科、皮尿科
藤沼醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

植田町本町
森合齒科医院
森合芳男

謹賀新年

國をあげて經濟國難を打開すべき新政の春を迎へて益々貴家の御淸福を祈ります

昭和五年一月元旦

福島縣湯本町本町 比佐昌平

謹賀新年

年頭在感

御互は心身を剛健にし國難打開に精進致し度いと存じます

因に我國債は五十八億圓 實に拾圓紙幣を一秒間に二枚の計算能率で九年七十一日十一時三十三分二秒 縱に並べると二萬三百六十二里二十三町三十一間二尺となり之れを特急列車一時間三十三哩の速度で走れば六十二日十八時間を要し又國民一人當にすれば七十二圓餘となる 然るに國民一人當の酒代は五圓六十錢煙草代三圓二十錢であるを以て如何となす

昭和五年一月元旦

福島縣雙葉郡新山小學校 鈴木佐忠

謹賀新禧

	昭和四年一月十四日	四年十二月十一日	低下
東株新	一五五円	一〇〇円	五五円
鐘紡	二五八	二四〇	一八
正金	二二一	一九一	三〇
王子紙	一二二	九九	二三
三越	一三七	一二三	一四
甲號五分利	九四、二〇円	九二、四五円	一、七五円
特別五分利	九九、九〇	九九、九〇	｜
第三五分利	九三、五五	九二、四五	一、一〇
二十八年九月	九四、五五	九二、八五	一、七〇
一回四分利	八〇、四〇	七八、四〇	二、〇〇

昭和五年元旦

佐藤一郎

福島市榮町十二番地 株式會社藤本ビルブローカー銀行支店
自宅 福島市曾根田田尻七

謹賀新年

開けまして御芽出度うございます此際私共は御同樣に緊縮致しませう又出來得る限り緊張致しませうそして國に報い己を全ふしたいと思ひます是非御後援を御願ひ申上ます

昭和五年一月元旦

磐城佑賢學舍 大和田豐吉

外勤員數名募集

月給を支給し外に歩合あり
御希望の方は歷履書送付次第面會日通知す

明治生命保險株式會社
平駐在社員 高玉德彌
平町杉平二一

謹賀新年

昭和五年元旦

當村は平町に隣接し人口二萬六千全國五指の一に數へらるゝ大村でありますが常磐炭田の中樞たる事が第一の原因でありませう綴驛より西に向つて左に綴坑右に高坂坑奧に町田の煙突が聳立して居ます何れも磐城炭礦會社の經營でその他四つの會社がありますその地下五百尺の處には數千の勞働者が一ヶの安全燈を賴りに陽光を隔てゝ無限の寶庫を開拓して居ます

村內に小學校四校裁縫女學校一この生徒總數約（五千中農業は約四割當校のみにて千五百三府三十一縣に亘り職員三十一名學級二十六を算します自治體は村議三十名學務委員八名何れも村平和を理想とし敎育第一を標榜して自治に精進せらるゝは最大の美事といふべく從つて私共も此の聖職に對し無限の歡喜と希望を抱いて居ます

福島縣石城郡內郷尋常高等小學校 渡邊壽重

賀正

年頭謹而高堂の萬福を奉祈上候
昨年中は一方ならぬ御厚情を忝ふし誠に難有奉深謝候
尚本年は奔馬の如く活躍不況の絆を斷切る所存何卒倍舊の御指導御鞭達下さる樣奉懇願候 謹言

庚午元旦

二葉印刷所 熊 謙太郎

福島縣平町仲町 電話七三四番

新年おめでとう存じます

昨年は一身上に可成りの變化がありました。それは女の子ー篤子の父となりました事と滿三年の靜的な故山生活から動的な都會生活へ進出した事でございます。今年は新裝の傳通會館の仕事を中心に貧しき社會の奉仕者として精進せんことを念じて居ります何卒一層の御指導と御鞭達とをお願致します 合掌

昭和五年正月元旦

東京市小石川區表町 傳通會館內 鈴木積善

謹啓 尊堂益々御健勝の段奉賀上候 弊店も昨年中は御蔭樣を以て豫期以上の成績を納め申候段御愛顧各位の御同情によるものと衷心感謝の至りに堪へず失禮乍ら書中を以て御厚禮申上候

今や金解禁第一年の新春を迎へ經濟界更生の初頭に立ち申候へば弊店も亦一段の努力を拂ひ愈々品質を改善し發送配達の敏速を計り以て各位の御期待に添はんことを期し申可候間何卒倍舊の御聲援御引立を賜り度偏に懇願奉候 敬白

元旦

福島縣平町四丁目 永山酒造店總發賣元

賀正

私も皆樣と共に嬉しい新年を迎へました憶へば過ぎし年は餘りに慌しく不安の中に送つたかの感が御座います

今年は元氣溌溂たる午の年で御座います、お互樣うんと力の續くまで働かうでは御座いませんか。此の度一寸躍り上つて左記の所に「藥と化粧品」の店を開きました。誠に貧弱ですが良き奉仕を致す心算で御座いますから末永く御贔負の程をお願ひ申し上げます。

一月元旦

平町田町通三六（電二六八）
尚美堂藥店
菅波裕（舊姓むくのき）

味噌 醬油
平稅務署向通り
山野邊米店
電話（呼出）七三四

平町田町
高久病院
電話五一三番

液體空氣會社製
（酸素含有量百分中九九、五）
（東京工業試驗所證明）
吸入用酸素、酸素吸入器
正確ナ体温器 寒暖計
關內藥局
電話四〇番

平町田町大通り
ライト寫眞館
高田二果
電話八四七番

膽寫版附屬品一式
スミス式・キング式
淸光堂
淸水屋書店
平町二丁目
電話百卅一番

X光線科
上田外科醫院
平南町
電話一二九番

酒銘 [illegible]
平町四丁目平驛通り
永山酒造店
總發賣元
電話二〇七番

磐城セメント代理店
西村屋藥舖
平二丁目 長電話參番

別府鑛水
長井博士の推奬せる萬病に靈効を有す
定價大瓶壹圓

溫泉エキス
（一名アンマイラズ）
別府溫泉より生產せる不思議なる塗布藥
小瓶五十錢 大瓶一圓也

美神丸
世界的評判になれる婦人插入藥
定價 一週分 四〇 二週分 八〇 五週分 一、八〇 十週分 三、五〇

キナサフラン酒
一日藥價僅かに五錢の自宅療法の妙藥
健康素として男女强壯藥
旺盛なる賣行は優秀なる效果を立證す
小瓶 一、二〇 大瓶 二、〇〇 德用 五、〇〇

仁丹體溫計 フエバ體溫計 特約店
平町五丁目角
山野邊藥局
藥劑士 山野邊東次郎

定評ある既成
防寒洋服
外套
あかや洋服店
磐城平（電話二〇三）

內科 小兒科（院長毎日診療）
院長 醫學博士 難波睦
內科部長 醫學博士 中西林藏
外科 專問
內臟外科 整形外科 レントゲン科
外科部長 醫學士 氏家憲介
毎日手術 醫學博士 桂重次
產婦人科 女子泌尿科
產婦人科部長 醫學博士 松枝茂
耳鼻咽喉科
部長 醫學士 井上俊次郎
毎日手術 醫學博士 渡邊貞助
X光線科
主任 醫學博士 難波睦
技師 工藤慶造
衛生試驗所 醫學博士 中西林造
衛生試驗所技師 小熊英夫
藥局
藥局長 吉本孝平
本院醫事法制囑託 法學士 岡蕃
本院 主管 賀澤忠治
◎◎◎ 一衛生試驗所 一病氣相談所 一救療所 ……（共濟病院內）……
◎救療を申込まるる方は當相談所へ御話し下さい
磐城共濟病院
平町 電話六四一番

日本將來の人口累增をどうするか
漁業は日本人の得意とするところ
水產業の盛衰は帝國將來を左右すべきものである
木村清治氏歐米視察談の概要（一）

洋行した時の代議士木村清治氏の歡迎會は昨年十二月八日平町有聲座に於て開催された、左は同席に於て木村氏の視察感想談の概要である。

大分暑いと思つた海洋は至つて冷やかであつた。

上海 上海に上陸したが道路の完備せる事には驚かされた郊外の道路でもアスファルトである。東亞同文書院も觀た、郊外に行つて支那人の住む家屋の狹隘なのにはビックリした。殊に農民の住む家屋がそうである、土の上へアンペラを布いて居り人間の住み難き感があつた、更に八十哩自動車にて進み二十年前首都

「呉の都會」

蘇州に行き此處支那の氣分を十二分に味ふ事が出來る……蘇州の人口四十五萬家屋は總べて瓦と土屛、々々の周り四十五哩といふ家は立派でない日本の領事館の警部が馬車を用意して案內し呉れた。その人の話を聞くと「支那の政治の亂れて居る事は甚しいもので日本の軍隊の居らぬ所では安心して營業が出來ぬ由で掠奪强盜が橫行して安心して生活が出來ず、逃れて上海や漢東に移り日本人を力にして居る」といふこの强盜の如きは兵隊が除隊される場合にやる相で、即ち支那の國籍が甚だ不明であるためか、除隊後の生活の資本にするため强盜をやるといふ推して知るべきである次は

香港「英領」に上陸これ又道路の完備せる事は想像以上で山の頂上にまでアスファルトでこの山頂まで自動車で登り得るのである。自動車で香港を一周した。この港の人口七十萬九割八分は支那人である。支那人許り住む所は變な臭氣がしてたまらなかつた、此處を視察して不自由であらふと考へたのは川がない、即ち飲料水は天水で池がタクさんあつて、炎暑で飲料水に困る折はこの池の水をロカして用ふる由である、これ又推して知るべきである。

シンガポール「英領」 道路はよろしい香港よりは少し劣つて居る樣であつた日本人の潔僻でせうか、此の港にはハシケがないのは變な氣がした、此處には種々雜多の人種が居る。アラビヤ人は印度人程黑くないが、此處に至つて私も大威張りであまり私は黑い方でない樣である呵々！そして巡査は印度人流石の私も驚いた。

ジヨホール に行つたバナヽ、パイナップル、ゴム日本人には珍らしく考へる『ゴムの製造法の說明があつたが略す』バナヽは一つの樹に二百も成る、バナヽの樣な鰐が居る、王樣の御寺は、シンガポールに等しい。

ペナーン 上陸此處で不思議なのは蛇寺である不思議な如來寺の前に花を飾るでなく蛇である、その蛇は死んで居るでなく生きて居る、突く〱動く……突かぬとヂッとして居る。寺中蛇だらけで大きな蛇を養つて置く、

極樂寺も觀たが大した事はない。

セーロン島のペーロン

人口五百萬、三分の二は佛教信者こゝより三十六哩**キヤンデー** 御釋迦樣の生誕地である。すべてアスファルト道路で變テコな御祭りあり、象を出して象には金をかけてゐる又象に服裝をさして、その金が何千圓を消して居るとか一人乘つて居るものや二人三人位のもあり、ザルを出して金を呉れ金を呉れをやつて居る。美人「女」といふは首飾りは大したもの盛裝であるが全部裸足「ハダシ」である私等が降りて見たがとても暑い固有の服裝をして居るものはハダシである。

コロンボ この港は天然でなく洲濱の所へ造つて居る防波堤に當る波浪の壯觀は觀物である般長に聞くとこの邊のどの港へ入港しても如何に金をかけたのか何十年前二百五十萬トン二千五百萬圓、兎に角三、四十年前であるから今でいふと一億萬圓である。外國といふものは莫大な金を消して築港するものであるといふ事が想像出來得るであらふ、この邊の即ち小名濱邊りの港を造るには簡單で外國とは比較にならぬ

スエズ運河は通らずエジプトピラミットを觀るべく八十七哩自動車で沙漠のなかを通過、道路も綺麗であつた、夜分

カイロに宿る

ナイル河 はきたない泥の如き河である支那の楊子港の如くニゴつて居る。ピラミットを觀にラクダに乘るラクダは習慣になつて居るであらふが人を乘せる折座はる降りるときも然りで上手なものである。所がラクダは行儀が良いがその馬方の行儀の惡いのには閉口した。即ちおあしをねだられるのである。私も根負けして二十錢をやつた樣なわけである。

室櫻關先生傳刊行趣意

磐城三藩中、近世の代表學者を求むれば、吾人は之を平藩儒、室櫻關先生とす。實に先生は明治戊辰の大亂に直面し、藩主安藤信正をして其の亂麻の如き內政を明斷し、且つ幕政三百年の運命將さに王政復古を急來し、崩壞せんとする間境に在りて、毎ねに信正を補佐しつゝ獻言、活躍せる秋霜烈日の如き賢聖であり。大識見者たりしや言を俟たざるなり。

然れば先生の傳記は、啻に鄉土不出世の先覺偉人たる、先生一個の人と爲りし全人格を彷彿するのみに非ず、先生を中心として、當時の紛糾せる平藩の內訌及び勢力乃至興廢等を知り、其の最後に於て、竟に順逆をりて、知らず彼の戊辰戰の餘儀なきに至りたる哀史的千載の恨事と、同時に此の際、平藩と密接、否其の行動を俱にしたる關係上泉、湯長谷藩の悲壯なる末政等をも加へ論す。

故に、本書內容の大部は是れ宛も舊磐城三藩並に同じく笠間藩神谷支領史とも見るべく、亦以て本郡の明治維新史とも稱すべき大鄉土史の一である。因つて玆に吾人は現時の經濟的萬難を排して、此の刊行を期したき所以なり。冀くば、有志諸氏の、奮つて贊同、義捐あらむことを。

發起人謹識

贊助規定

一、贊助員は、舊平藩士並に泉、湯長谷藩士、舊笠間藩神谷士及び本郡一般有志、其の他磐城中學校卒業者の一部關係者と櫻關先生より直接教授を受けたる門人等とす。

一、贊助員の資格は、本書刊行に盡力せる人、又は五圓以上の義捐者に限る。而して贊助員に二種あり、即ち

五圓以上（普通讃助員）　拾圓以上（特別贊助員）

一、特別贊助員には、櫻關先生の後嗣、元平窪村長及び磐城中學校劍道師範たりし室直與先生（當年八十三歲）の半切書、並に本書特製を各一部無代進呈す。

一、普通贊助員には本書並製を一部、無代贈呈するものとす。

發行及頒布

一、本書は凡そ菊版五百頁內外とし、刊行期日は、昭和五年十一月迄とす。而して印刷及び製版等の一切は東京に於て完全、美麗を期す。

一、該書の頒布所は、平町飯野八幡神社境內に於て建てる櫻關先生碑前に於て、其の贈呈式を擧ぐ。

一、頒布當日は櫻關先生の追憶講演を兼ねて、舊磐城三藩主並に同笠間藩主閣下其の他中央學者の臨場を乞ひて施行す。（尙當日は神酒及び辨當を備ふ）

一、贊助員の應募數は普通、特別を合せて約一千人とし、其の豫算範圍にて本書を刊行し、萬一不足を生ずる時は、刊行委員又は發起人等の一部にて之を負擔す

內部規定

一、舊磐城三藩主及び同笠間藩主は、本書刊行の顧問に仰ぎ、且つ本書の卷頭に題字の寄與を乞ふ。

一、刊行委員は本會の事業並に編纂、頒布等を監督する任に膺る。

一、編纂員は、刊行委員の指揮に從ひ、本書に要する資料の蒐集及び著述に專らつとむること。

一、會計は、贊助義捐金の管理を掌る。而して委員長之を監督す

昭和五年一月　福島縣平町舊城跡十二番地

室櫻關先生傳刊行會

電話四〇三番

刊行委員（順不同）

本會代表者刊行委員長　舊平藩主	青沼銖太郎
舊平藩苗字帶刀御免	山崎與三郎
舊平藩士	加藤丈夫
同	花澤文庫
舊泉藩家老	本多忠綱
舊泉藩士	小林滅次
同	中村立躬
同	吉田正愛
幕領小名濱陣屋御用商	小野晉平
舊平藩士	多田井笑次郎
同	廣田德行
敎育家	大和田豐吉
舊湯長谷藩士	杉山勇馬
舊笠間藩苗字帶刀御免	酒井良平
平町長	伏見彥衛
磐崎村長	酒井嘉藏
舊笠間藩神谷士	長壽男
神谷村長	佐藤久三郎
慶大醫學部講師	田子勝彌
平窪村長	草野常彌
前平窪村長	松崎松治
（會計）舊平藩士	田村顯允
（同）舊湯長谷藩士	關口鉄助
舊平藩士	佐々木龍若
磐城共濟會長	賀澤忠治
勿來町長	大平睦四郎

（猶、刊行委員として、紹介又は交涉中の士有之右より增加す。）

編纂員

諸根樟一　諸橋元三郎　草野順平

顧問（題字御執筆者）

舊平藩主子爵	安藤信昭閣下
舊泉藩主子爵	本多忠晃閣下
舊湯長谷藩主子爵	內藤政潔閣下
舊笠間藩主子爵	牧野貞亮閣下

語耳目

總選日も後餘す所旬餘日となつて與黨、野黨、無產黨、中立ともに鹿を逐ふ猛者連が出揃つた樣である、兎に角これが全國的だから素破らしいものである。

× ×

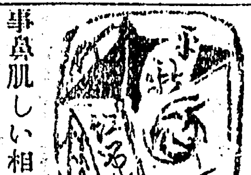
本縣第三區石城、双葉、相馬濱三郡第三區は定員參名の所へ民政側比佐昌平氏家清の二公認、政友側は松本出ですして佐藤庄太郎代り、早くより木村清治名乘りを揚げて居る無產黨中立ともに過般の如き馬鹿者御先見ずのものないと見え此の分では四候補であらふ。この四名中落選の憂き目を見るは誰か、選擧は餘り豫斷は許さず開けて見ねば判らぬ事。

石城郡を根據とする民政の比佐側は先に野崎といふ向ふ見ずが現はれんとして炭礦王の小田さんも押し兼ねたと見え野崎は第三區より吾が黨二人の當選を期すとか偏非式を發揮して居る樣である虫の良い言である。野崎氏たるもの大いに雅量を示して比佐を極力推す大襟度と誠意と舊情が出ぬものか、氏將來のため悲まざるを得ない。

× ×

木村派は同じ舊政友たる佐藤庄太郎氏の出づるありて實際如何に若手連の蟻も逃さぬ策謀をなすも比佐の强敵、氏家の側面夜襲に備へても一番恐しきは同打志ち程結果のまづいものはない事は過去の縣議戰に照して事明らかな事である。

× ×



■やれ緊縮だ、選擧だと花柳界方面はタダる事寒肌しい相だ……がコソコソ遊びは何時の世も同じ事で買れるものはズート出るが出ないものは一行事拾本以內のものあるとはウソの樣なマコトのハナシであるげナ。■それはそうでせう失敗したとて、家庭が不和だと、喧嘩して仲直り、ズット進んで破產しかけた、又復進んでは犯罪人、等々失意の盲者男共が己れの荒んだ心を慰めようとして行く、そして溺れて了ふては落籍するといふ順序だ……が行詰つたもの八幡小路行となるのである、誰か言つたか「犯罪の裏に色と酒あり」とは男にのみの通用語ではない、御注意を要す女にもあるからね……三線の諸君！■かくの如きで金を殘すとか、いふ家庭圓滿な人は花柳界行の男は見當りませんね……但し例外、番外はあるらふ。所謂變態○慾者とか、即ち死金使ふ人である。■惚れて通ひば千里も一里で十八レ、ク、たる醉人？は緊縮が何の……選擧が何の……こういふ男を握んだ料亭、又は紅裙は不景氣知らずといふが結論は永續きせぬ事になつて所謂水商賣で自分の代に殘してもアブクゼニ……となる因果程佛敎信者ならねど恐しいものはないテ、■それはそれとして谷口のキンツバお染さんは丸腦と榮轉この妓なら三味は達者でなかつたから結構で二度の勤めはせず夫大事にその名の如くする滿足するであらふ。■玉川からは又も小名濱の壽滿屋に十年も居つたチン子が小糸と名乘つて二十三才であらふか、江名に生れて小名濱育ちアラボイ所があるが魚のその如くサバけて擴からいキッイ所があるかも知らぬが寄せては返し白波のその如く熱して岩をも碎くかの情心があるかも知れぬから時節柄緊縮で座にハんべらして見給へとなん。

關西旅行記　拾壹

西山孝賴

廿五　高崎線

列車は高崎を發すればようやくにして靑々としたる田園を見る事が出來た。列車は田や畠の中を進んで熊谷に着しぬ。こゝは有名な櫻の名所であるやがて列車は熊谷を發してまもなく大宮驛に着しぬ、大宮は汽車の製作する所である、大宮驛內は汽車製作工場が澤山並んで居つた。そして職工達が土人のようになつて働らいてゐた、やがて列車は大宮驛を發して赤羽田端と過ぎて行く、車窓より眺むれば貨物線が幾線も通つて居る、そして絕え間なく貨物列車は通ずる郊外電車は縱橫無盡に走る、省線電車は高架線を疾走す、まさに交通機關の集散地とも云へるでせう。

列車は黃昏の夕日にてらされつゝようやくにして上野に着す。上野長野間所要時間は九時間である。中央線と同樣であつた。

廿六　東金館

列車より降りて一丁程上野公園の方へ歩んで行つた。時上野公園東入口に旅館があつたのでこゝへとまる事にした。この旅館はせまかつた、番頭さんに案內されて一室におちつきぬやがて女中さんがお茶を運ぶ暫らくしてお湯に入りからだを清めた後ち、夕飯を過すこゝの女中さんは三十三四才位である、餘り女中さんはよい方ではなかつた。この旅館は電車や自動車の通うらない所にあるのでうるさくはなかつた、ただ旅館の上は高架線なので絕えず省線電車が通つてゐるのでやかましい位であつた。飯をたべてから女中さんに淺草へ行つて來ると話した、やがて六時半旅館を出て淺草見物に行く。

年賀ハガキより（四）

喪中に付年賀の禮を御遠慮申上候

尙舊臘中左記の處に小屋出來し移轉仕り候間御報知申上候

昭和五年一月吉日　東京市本郷區湯島三組町四八
酒井菊雄

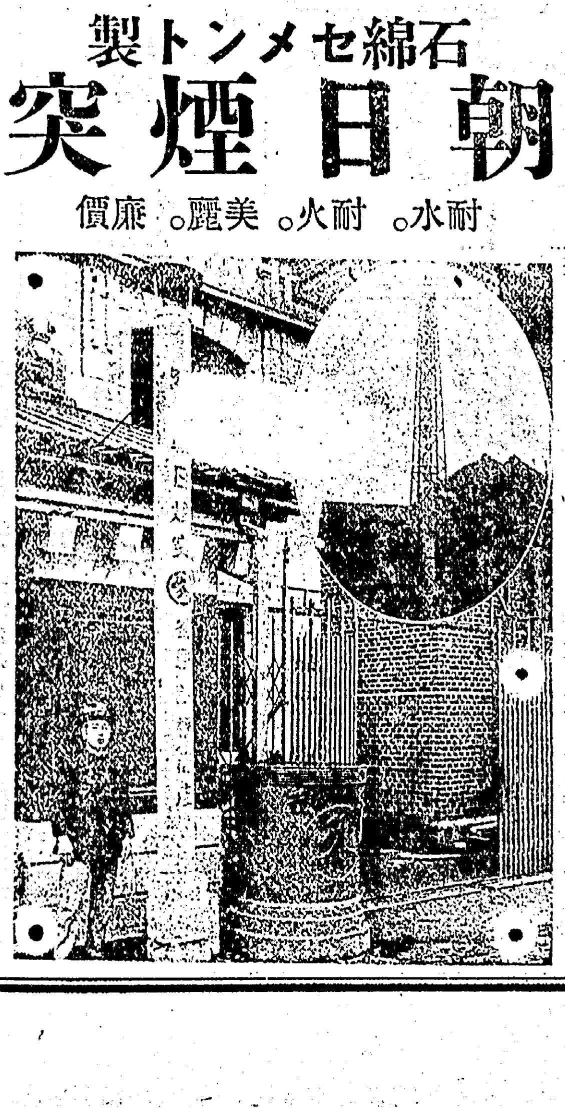
萬象更新

歲改り梅花馥郁芳香遙かに御尊体の御健康を奉祈候

昭和五年元旦　支那靑島市外四方庄
內外綿株式會社
柳內顯一
仝　英子

日本石油株式會社特約店
平町二丁目
油問屋
淸關內油店
關內正一
電話長十六番
支店　郡山市驛前　電話三二八番
支店油槽所　茨城縣多賀郡關本驛前　電話（平潟）三七番

磐城セメント特約販賣店
石綿セメント製
朝日煙突
耐水。耐火。美麗。廉價
サビナイ。ヤケナイ。クサラナイ



和洋銅鐵金物
(久) 釜屋商店
平町五丁目
電話九番 一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
良品廉賣に勝る商略なし確實敏捷は(久)の生命なり